

令和7年度全国学力・学習状況調査結果について

彦根市教育委員会
令和7年8月

令和7年4月17日（木曜日）に、全国学力・学習状況調査が実施されました。
今回の調査を分析して、この調査から見てきた本市児童生徒の学力と学習状況に関する結果をお知らせします。

調査の目的・内容

(1) 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- ・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査対象

国・公・私立学校の小学校第6学年 中学校第3学年 原則として全児童生徒

(3) 調査事項

①児童生徒に対する調査

ア：教科に関する調査（国語 算数・数学 理科）

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は以下のとおり。

- ・身に付けておかねば後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- ・中学校理科は、CBT調査に基づくIRTスコア
【Item Response Theory：項目反応理論 国際的な学力調査（PISA、TIMSS など）や英語資格・検定試験（TOEIC・TOEFL など）で採用されているテスト理論 500を基準とした得点】で示しています。

イ：質問調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等

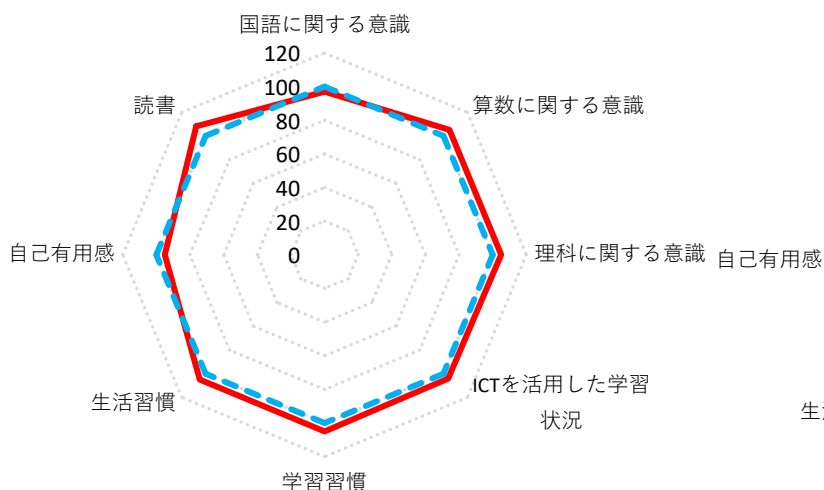
②学校質問調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等

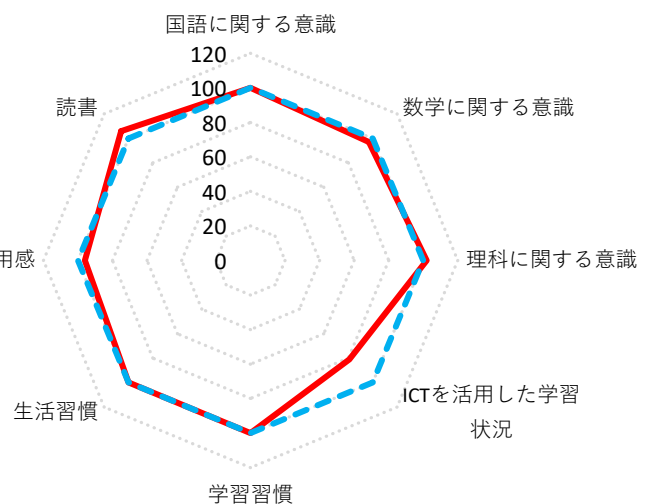
調査結果の概要

*全国の値を100としたときの市の値を表しています。■全国 ■彦根市

小学校

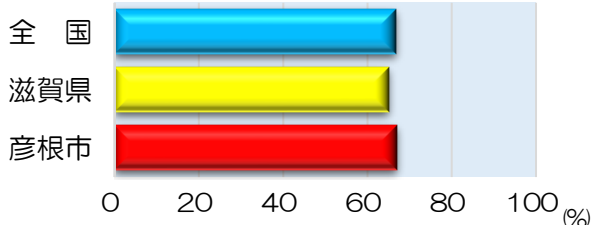


中学校



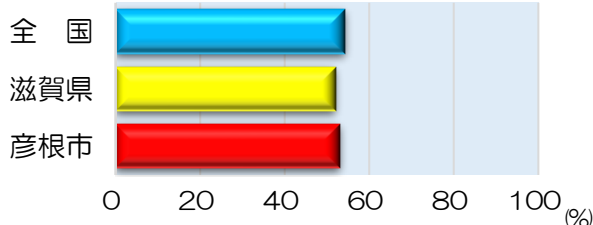
小学校（全14問）

平均正答率

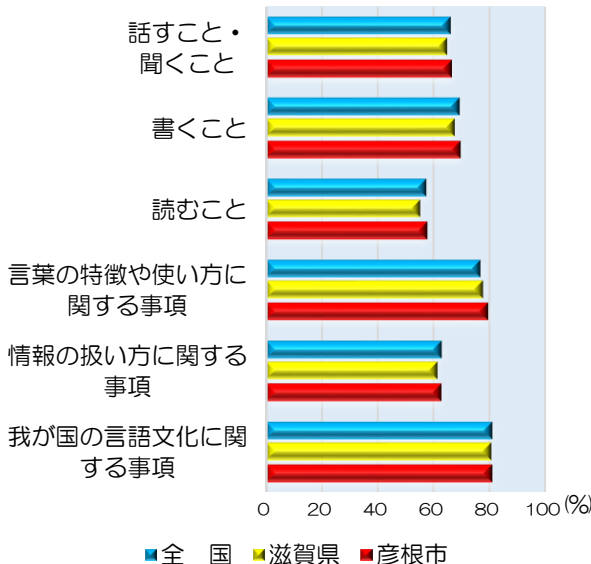


中学校（全14問）

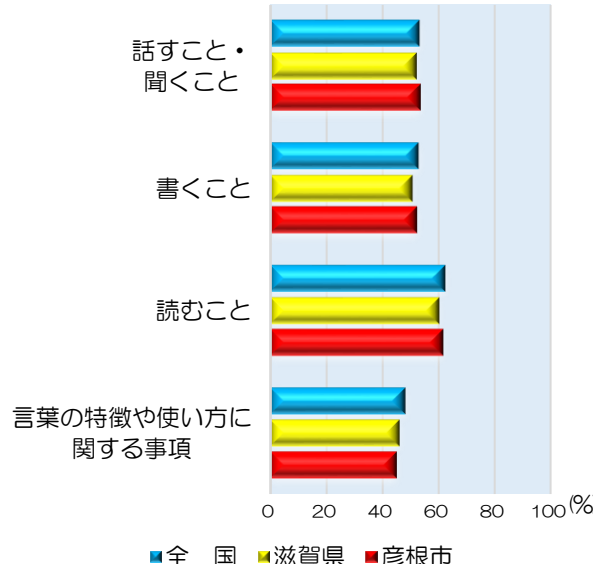
平均正答率



領域別正答率



領域別正答率



この調査から分かること

（結果の概要）

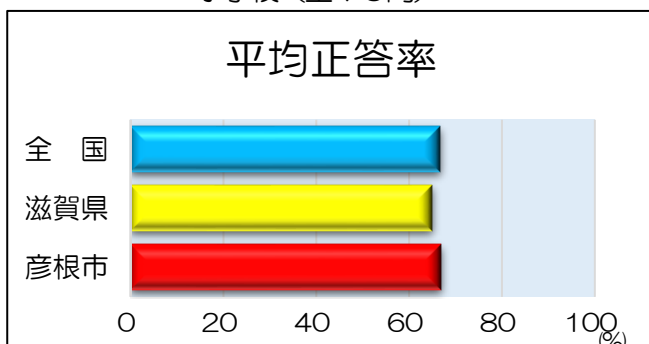
- 平均正答率は、小学校ではほぼ同等でしたが、中学校では全国平均を若干下回りました。
- 領域別正答率を見ると、小学校では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の領域では全国平均を上回りましたが、「情報の扱い方に関する事項」の領域で全国平均を若干下回りました。中学校では、「話すこと・聞くこと」の領域では全国平均を上回りましたが、「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域で全国平均を若干下回りました。
- 平均正答率について、小学校では、全ての記述式問題において全国平均を上回りました。中学校では、全4問中3問の記述式問題において、全国平均を下回りました。
- 小学校の記述式問題の無解答率が全国平均よりも低く、粘り強く問題に取り組む姿勢について改善が見られました。中学校の記述式問題の無解答率が全国よりも高い傾向でした。

（求められる力）

- 小学校では、昨年度に続き「目的や意図に応じて、複数の資料や文章から必要な情報を取り出して整理し、自分の考えをまとめる力」を身に付けることが求められます。
- 中学校では、「文章構成の工夫や効果について考え、根拠を明確にして記述する力」や「目的に応じて必要な情報を選択し、読み手の立場に立って文章を整える力」を身に付けることが求められます。

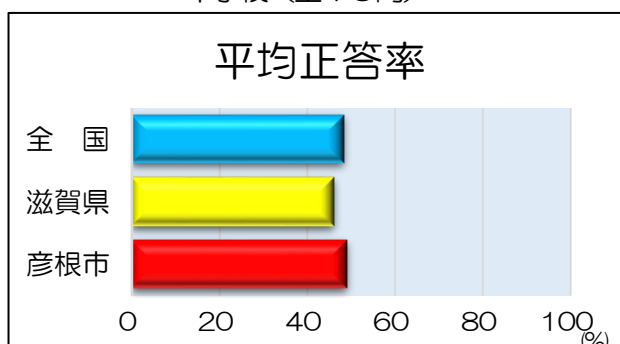
小学校（全16問）

平均正答率

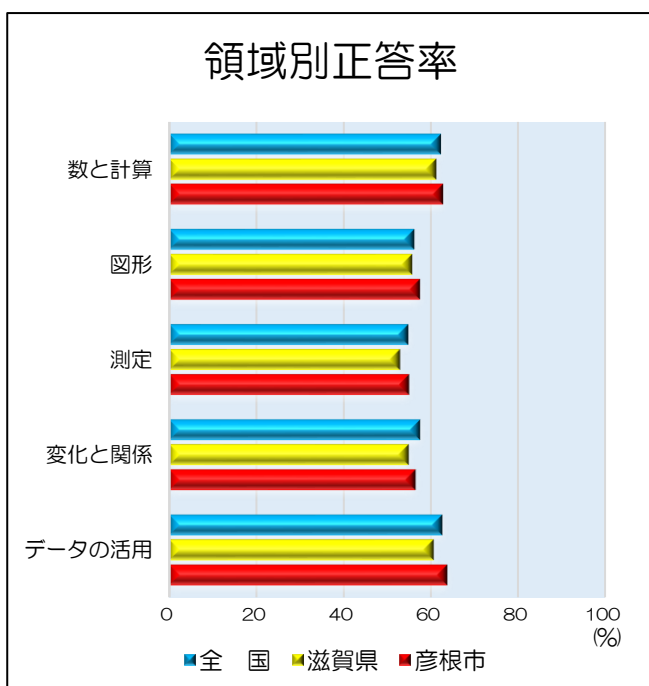


中学校（全15問）

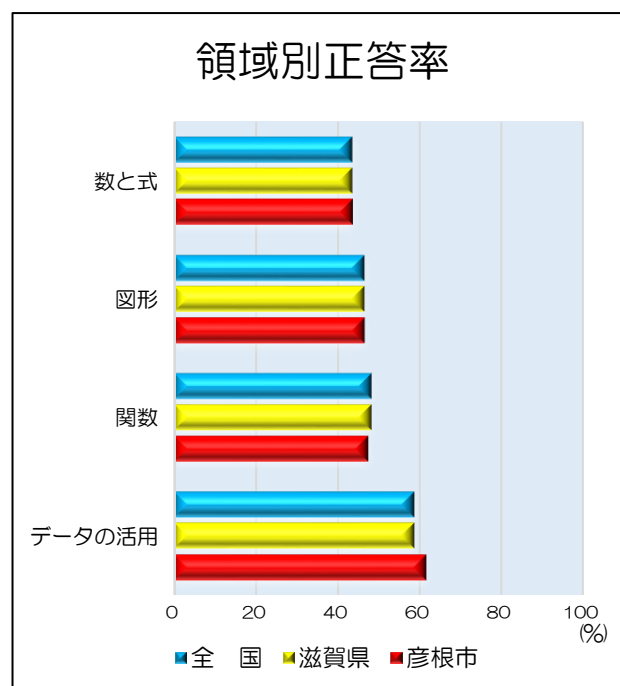
平均正答率



領域別正答率



領域別正答率



この調査から分かること

（結果の概要）

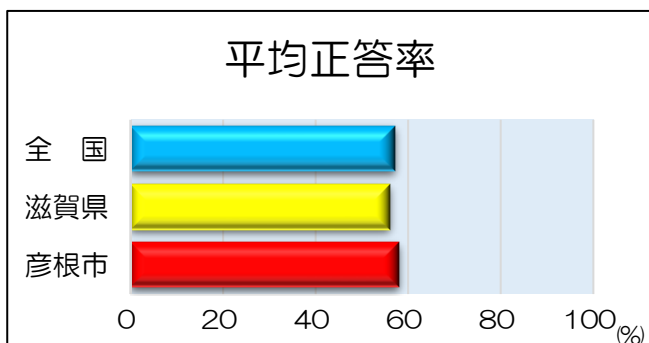
- 平均正答率は、小学校・中学校共に全国平均を上回りました。
- 領域別正答率を見ると、小学校では「数と計算」「図形」「測定」「データの活用」領域で全国平均を上回りましたが、「変化と関係」領域は、全国平均を若干下回りました。中学校では、「数と式」「図形」「データの活用」領域では全国平均と同等または上回りましたが、「関数」領域では全国平均を若干下回りました。
- 問題別で見ると、小学校では、概ね全国平均を上回る結果でしたが、「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題の理解度に課題が見られました。中学校では、概ね全国平均を上回るまたは同等の結果でしたが、連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する問題の理解度に課題が見られました。
- 記述式問題の無回答率について、小学校は全国平均よりも低く、中学校では全国平均よりも高い結果となりました。

（求められる力）

- 小学校では、「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出す力」が求められます。
- 中学校では、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する力」が求められます。

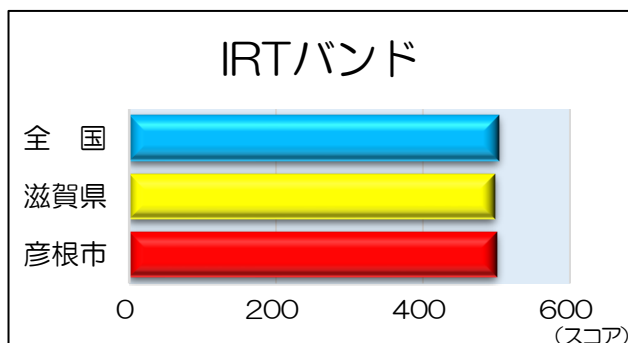
小学校（全17問）

平均正答率

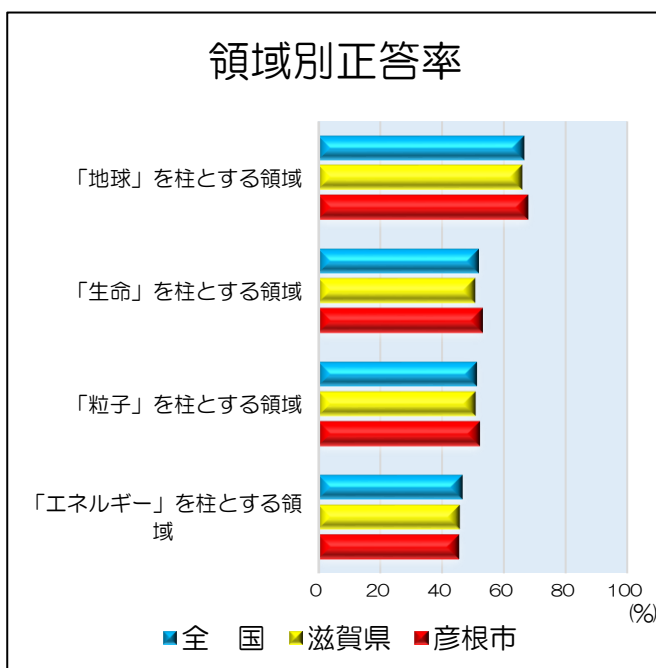


中学校（全26問）

IRTバンド



領域別正答率



中学校理科においては、領域別正答率が公表されていないため、載せていません。

この調査から分かること

（結果の概要）

- 平均正答率について、小学校では全国平均を上回りました。IRT スコアについて、中学校では全国平均を若干下回りました。
- 領域別正答率を見ると、小学校では「粒子」「生命」「地球」の領域で全国平均を上回りましたが、「エネルギー」の領域では全国平均を下回りました。
- 小・中学校共に、記述式問題での正答率が全国平均を下回りました。
- 記述式問題の無回答率について、小学校では全国平均よりも低く、中学校では全国平均よりも高い結果となりました。

（求められる力）

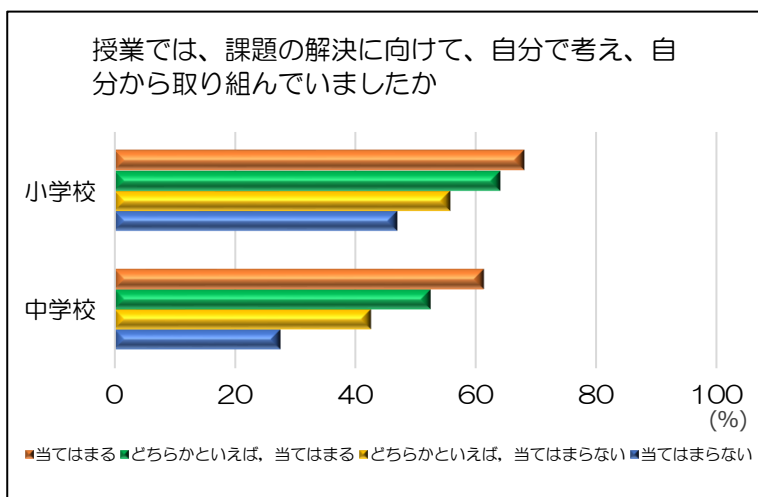
- 小・中学校共に、「実験結果を基に結論を導いた理由を表現することや、差異点や共通点を基に新たな問題を見出し、表現する力」が求められます。

教科に関する調査と質問調査とのクロス集計から

教科に関する調査と児童生徒質問調査の関連性を把握するため、グラフと組み合わせて視覚的に分かりやすく相関関係を整理しました。一般的に明確な階段になっている程、関係性があるとされています。

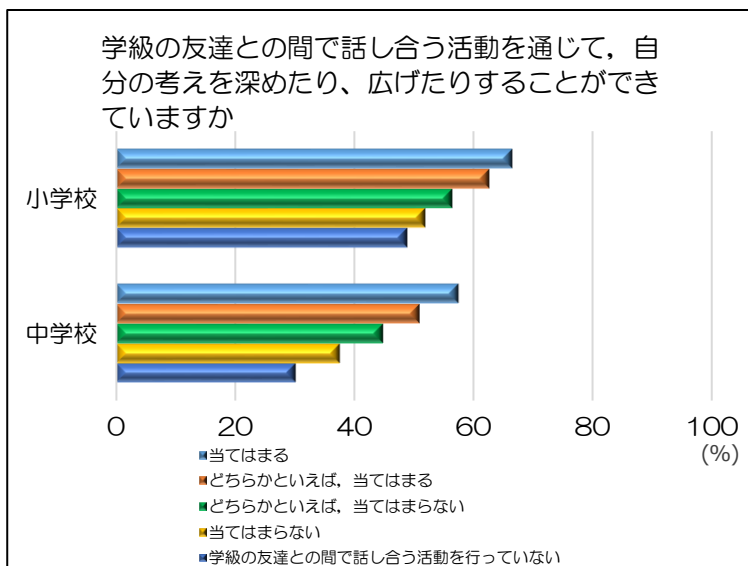
※グラフは、各質問項目において、それぞれの選択肢における「国語・算数（数学）」の正答率の平均値をあらわしたものです。

○授業力の向上の観点から



「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という問いに肯定的に回答した子どもは、教科の正答率が高いという結果でした。

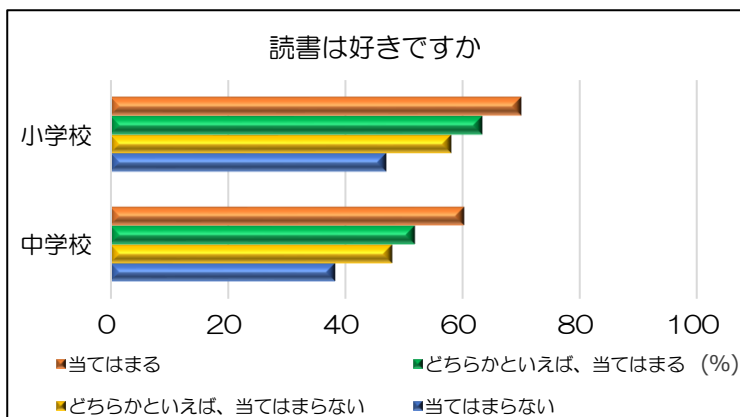
子どもの「面白そう」「やってみたい」といった意欲が生まれる授業を推進し、学びに向かう姿勢を育んでいきます。



「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という問いに肯定的に回答した子どもは、教科の正答率が高いという結果でした。

協働での学びを通して、「なるほど」「そのような考え方もあるのか」など、新たな気づきを促し、確かな学力の向上につなげていきます。

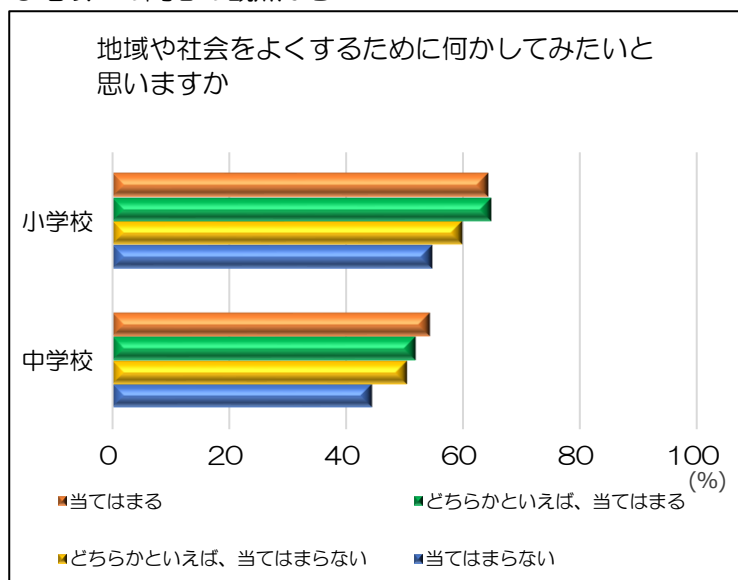
○読書の観点から



「読書は好きですか」という問いに肯定的に回答した子どもは、教科の正答率が高いという結果でした。

学校図書館を活用した学習を推進し、家庭での読書習慣を促す取組の推進等に今後も努めていきます。

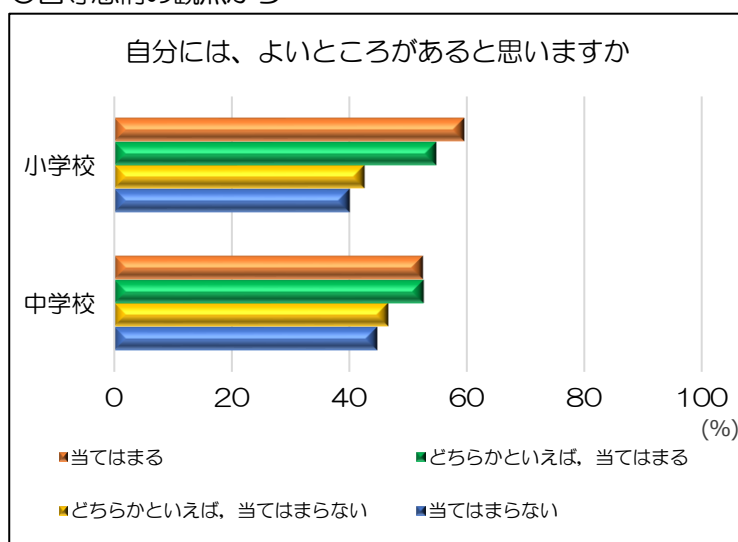
○地域への関心の観点から



「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という問いに肯定的に回答した子どもは、教科の正答率が高いという結果でした。

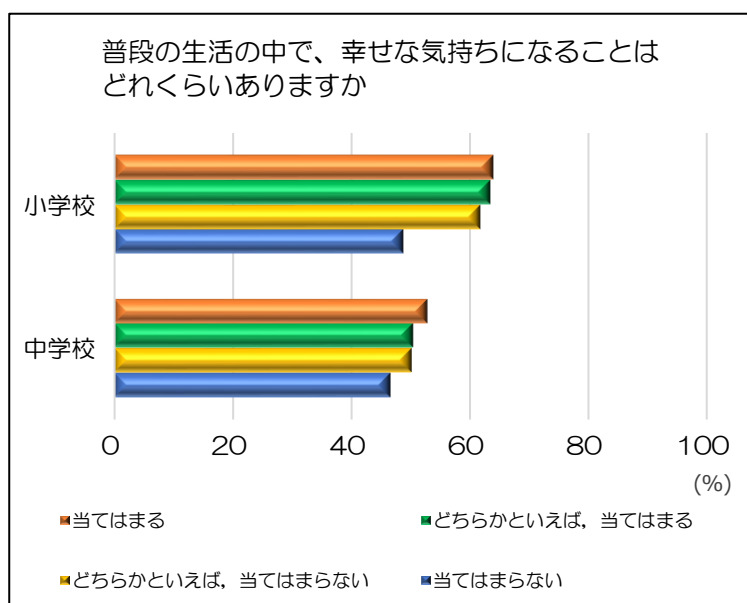
地域の人材・教材を生かした郷土学習を推進し、主体的にこれからの地域について考える子どもたちの態度を育んでいきます。

○自尊感情の観点から



「自分には、よいところがあると思いますか」という問いに肯定的に回答した子どもは、教科の正答率が高いという結果でした。

結果のみに注目したり他者と比べたりするのではなく、子どものがんばりや成長をほめて励ますことで、次のやる気につなげていきます。



「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という問いに肯定的に回答した子どもは、教科の正答率が高いという結果でした。

人は、同世代の人々や大人の温かい関わりに安心や信頼を感じると言われます。一人ひとりを尊重して、温かく見守っていくとともに、子どものやる気を引き出し挑戦することを称賛し、失敗することも含めて認めて伸ばしていきます。

「彦根教育学びの提言 プラス ひこねっこ こころそだての6か条」について

彦根市教育委員会では、これからの時代を生きるうえで重要な「非認知能力」を子ども達に育むことをめざして、「彦根教育学びの提言 プラス ひこねっこ こころそだての6か条」を令和2年度に作成しました。子どもの身近にいる大人の考え方や言動等は子どもの非認知能力を育てるための重要な環境であることから、子ども達へのメッセージと共に、大人たちへのメッセージも示しています。

全国・学力状況調査の児童生徒質問紙の回答状況について、「彦根教育学びの提言 プラス ひこねっこ こころそだての6か条」の視点で分析し、彦根市の子ども達の育ちについてまとめてみました。

＜非認知能力＞3つの能力とそれぞれの能力を構成する要素

○目標の達成

・忍耐力 ・自己抑制力 ・目標への情熱

○他者との協働

・社交性 ・敬意 ・思いやり

○情動の制御

・自尊心 ・楽観性 ・自信

(出典 「非認知能力が子どもを伸ばす」中山 芳一 著 東京書籍)

彦根教育学びの提言 プラス

彦根市教育委員会

ひこねっこ こころそだての6か条

い

いいんだよ ありのままで！

★子どもは、大人の温かい関わりに安心や信頼を感じます。話をじっくり聞くこと、ありのままを認めることが大切です。

い

いっほ 一歩ふみだし やってみよう！

★「まず、やってみよう！」「なんとかなるよ！」「と応援しましょう。小さな成功体験や失敗から学ぶ経験の積み重ねが、子どもの力を伸ばします。

な

なぜ？どうして？は ^{まな} 学びのチャンス☆

★子どもの疑問に寄り添い、「～したい！」という気持ちを大事にして、探究心をはぐくみましょう。

お

^{おも} ^{こころ} 思いやりの心で つながろう！

★「自分なら…」「自分がされたら…」と一緒に考えながら、相手の気持ちを思いやる大切さを、子どもの心に届けましょう。

す

^{すこ} ^{じぶん} 少しのがまん 自分のために☆

★目標達成に向けて、一緒に「計画をたてる」「ルールを決める」などして、時には我慢も必要なことに気づかせながら、自分で判断し行動できる力を育てましょう。

け

^{げんき} ^{ゆめ} ^む 元気にチャレンジ 夢に向かって☆

★結果のみに注目したり他者と比べたりするのではなく、がんばりや成長をほめて励ますことが、子どもの次のやる気につながります。

「彦根教育学びの提言 プラス ひこねっこ ころそだての6か条」の視点での
児童生徒質問調査の分析について

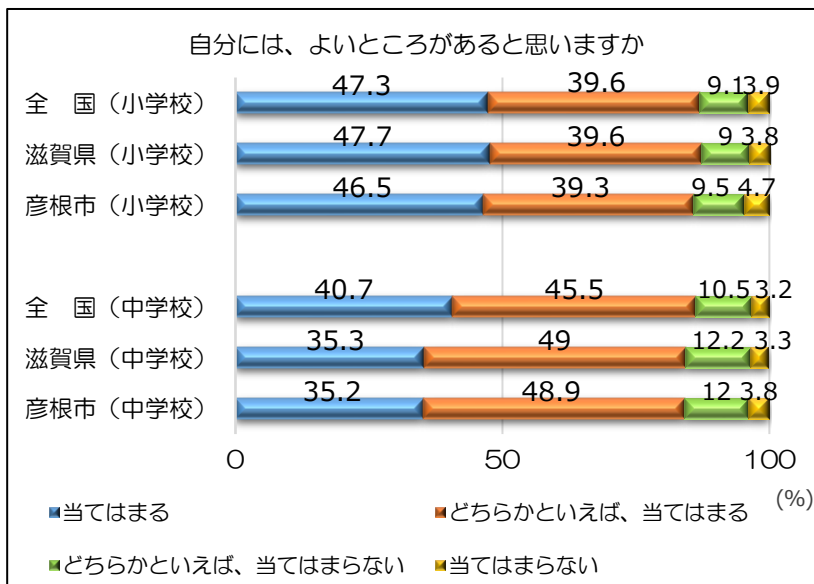
※グラフの数値について、小数第2位以下は省略しています。

い

いいんだよ ありのままで！

小中学校ともに 80%以上の
子どもが肯定的に回答しまし
た。しかし、一部に肯定的でない
回答も見られました。

学校、家庭、地域において、子
どもの話をじっくりと聞き、成
功体験だけでなく失敗体験も含
め、チャレンジした姿勢を認め・
励まし、自己肯定感を育むこと
を大切にしていきたいもので
す。

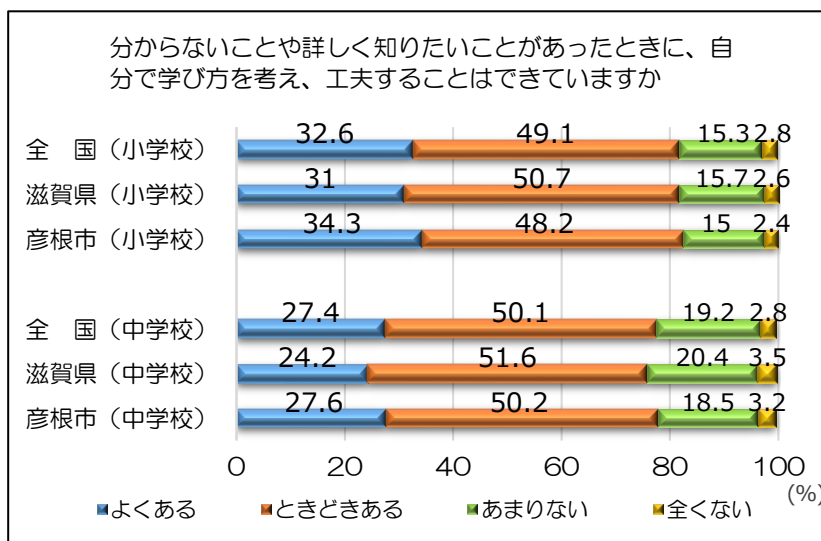


い

一歩ふみだし やってみよう！

小・中学校共に 80%程度の子
どもが肯定的に回答しました。

子どもが「どうしたらいいの
かな?」と困っている時、その気
持ちに寄り添い、そっと背中を
押してあげてください。チャレ
ンジしたことや、その過程をほ
め、小さな成功体験や取組につ
いて振り返り、次はどうすれば
いいか見通しをもつことで、子
どもは自信を付けていきます。





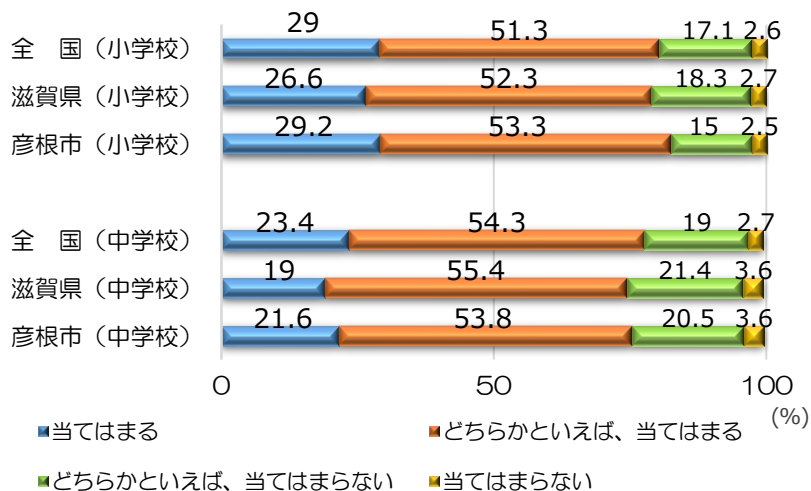
なぜ? どうして? は 学びのチャンス☆

小学校で約80%、中学校で約75%の子どもが肯定的に回答しました。

「探求心」は思考力や観察力の土台となる重要な力です。これを育むためには、子どもの疑問に寄り添い、一緒に考えたり探したりする姿勢を大切にしていきたいものです。



授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



思いやりの心で つながろう!

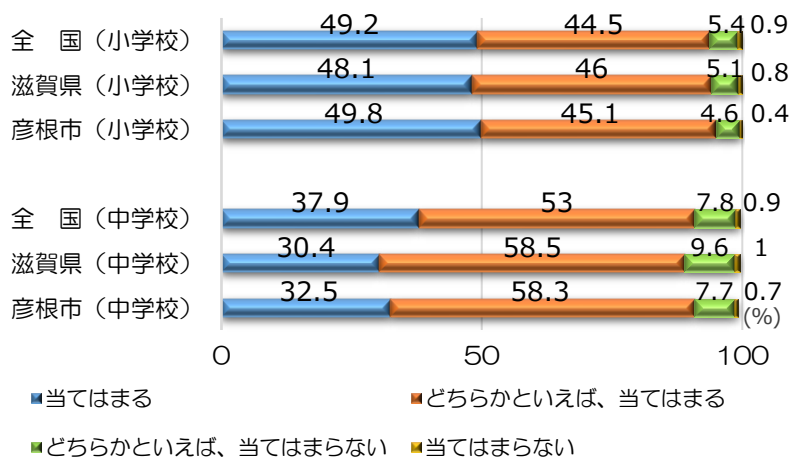
「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに、小中学校ともに90%以上の子どもが肯定的に回答しました。

困っている人に声をかける、感謝の言葉を忘れず伝える、周りの相手の気持ちに寄り添う姿も多く見られ、今後はさらにその輪を広げていきたいと思えます。

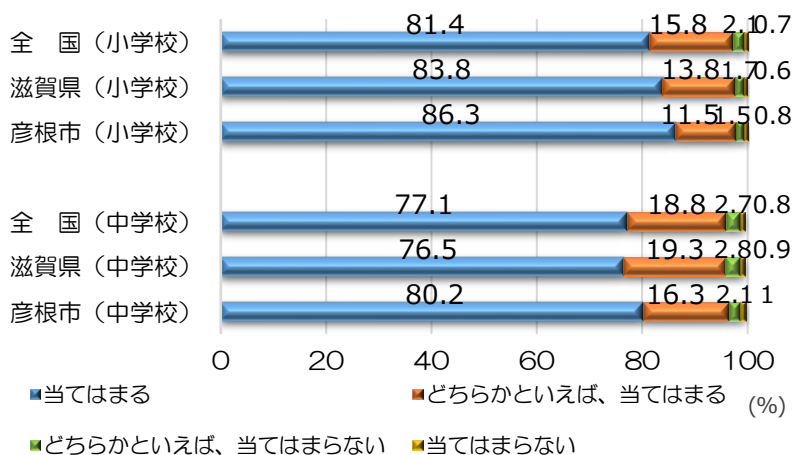
思いやりは、「体験」や「感情の共有」から育まれます。失敗したときに「どうすればよかったかな?」と一緒に考えることが、子どもにとって大きな学びになります。



人が困っているときは、進んで助けていますか



いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

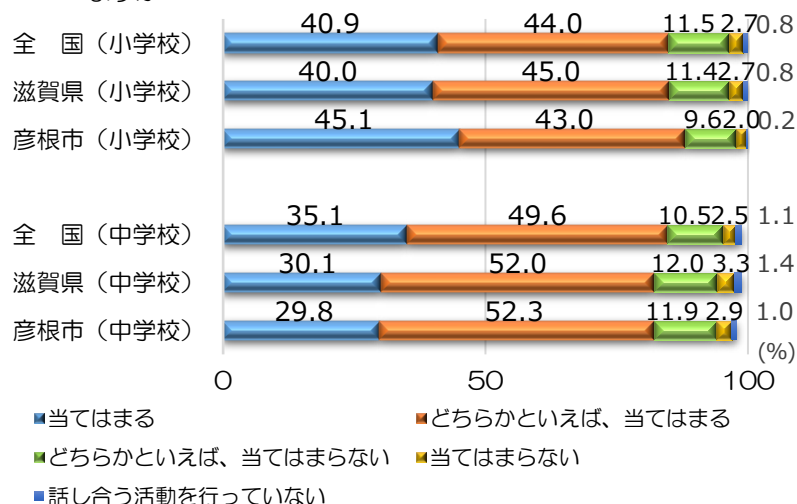


小中学校ともに約80%の子どもが肯定的な回答をしました。

話し合い活動を充実させ、周囲の意見から新たな考えを取り入れることで、「なるほど、そういう考えもあるのか。じゃあ、これはどうかな?」といった思考の深まりを促す授業づくりを工夫して進めていきます。



学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



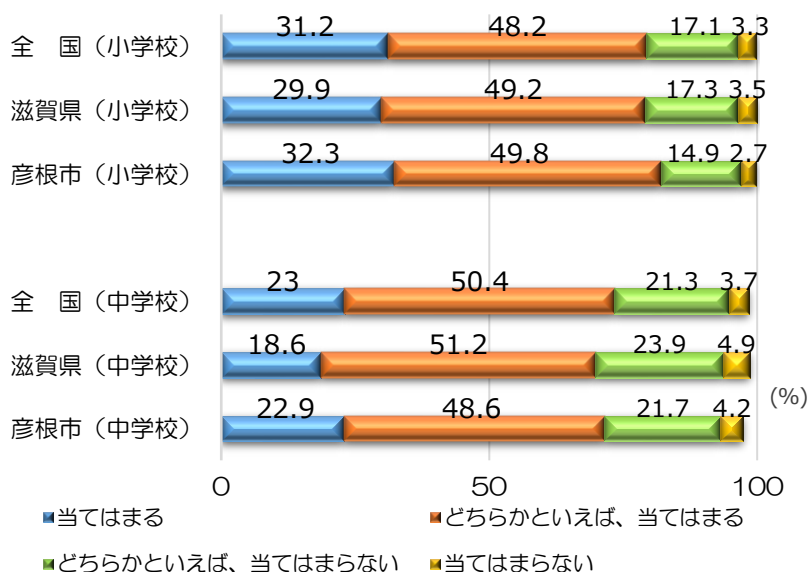
少しのがまん 自分のために☆

小学生の約80%、中学生の約70%の子どもが肯定的な回答をしました。

学校では、振り返りの時間を大切に、自分の伸びを実感できるよう支援しながら、次の学習につなげていく取組を進めています。振り返りを生かして学習を進めていくことで、粘り強く学ぶ姿勢も育まれます。ご家庭でも「今日の学習はどうだった?」など、振り返りを促し、自身を見つめる機会をお願いします。



学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

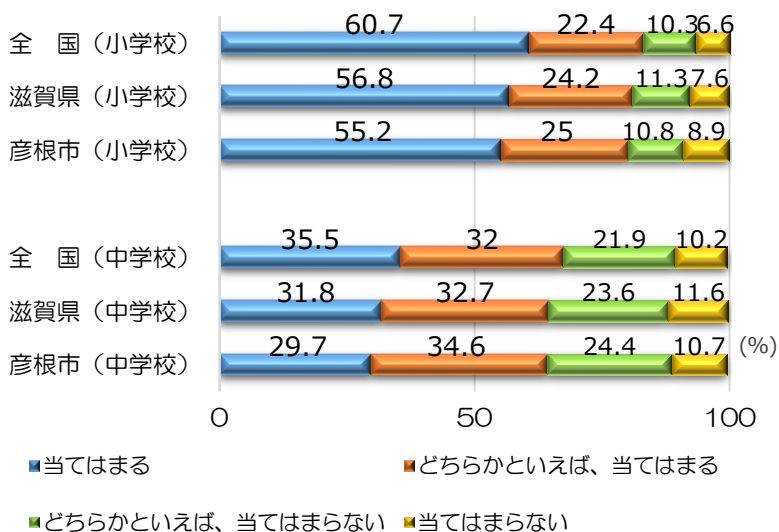


小学校では、約80%、中学校では約60%の子どもが肯定的に回答しています。

子どもが自分でやろうとした意欲や姿勢を認めることが大切です。結果だけでなく、途中経過の努力をほめられた子どもは、目標に向かって努力を惜しまずに取り組むようになります。



将来の夢や目標を持っていますか



保護者・地域みなさまへ

変化が激しく予測が難しい時代を生き抜くためには、柔軟な思考と迅速な行動、そして常に学び続ける姿勢が不可欠であり、また、変化を恐れず、むしろ変化を機会と捉え、積極的に行動することが重要とされています。そのため、生涯にわたって学び続けることが必要になります。市教育委員会では、学習指導要領で示された3つの柱「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の育成を目指し、取組を進めています。とりわけ、「学びに向かう力・人間性等」の育成につながる「非認知能力」を伸ばすことが基盤となると考えております。

調査結果を受けて、学校においては、自校の調査結果を分析して授業改善に生かし、子ども達の心を育む授業づくりに努めていきます。子どもたちの興味・関心を引き出し、主体的に学べる授業の工夫や、学習支援の充実を進め、授業をきっかけとして自ら学ぶ力を身に付けるように支援してまいります。

家庭や地域の皆さまには、次のようなご協力をお願い申し上げます。まず、家庭では子どもたちの学習習慣づくりや、わからないことがあったときに気軽に質問できる関係性の構築をお願いいたします。声かけや励ましを通じて、子どもたちの自己肯定感や意欲を高めることも重要です。また、地域の皆さまには、子どもたちが安心して過ごせる環境の整備や、学習活動へのご支援をお願いしたいと思います。子どもたちが多様な経験や人との交流を通じて、学びの楽しさや意義を実感できるよう、共に見守り、支えていきましょう。

私たちの願いは、子どもたちが自分の可能性を信じ、夢や目標に向かって積極的にチャレンジし、一人ひとりが互いに尊重される社会をつくることです。そのためには、学校だけでなく、家庭や地域社会が一体となり、子どもたちを支えることが必要です。今後も、子どもたちが安心して学び、自分らしく成長できる教育環境の整備に努めてまいります。どうぞ、引き続きのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。